

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 美濃和紙原料の供給安定化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業技術課 技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内3746)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,535 千円 (前年度予算額： 2,883 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,883	1,194	0	0	0	0	0	0	1,689
要求額	2,535	1,057	0	0	0	0	0	0	1,478
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

美濃和紙は「薄い、丈夫、漉 (すき) ムラがない」といった特長を持つ「清流の国ぎふ」が育んだ伝統的工芸品である。

美濃和紙の中でもコウゾ繊維だけを原料とし伝統的製法で作られる「本美濃紙」は、ユネスコの政府間委員会で無形文化遺産「和紙日本の手漉和紙技術」として登録された。

手漉和紙業界から、最高級原料の「太子那須コウゾ」に匹敵する高品質なコウゾの栽培・生産に対する強い要望がある。

美濃市内で生産されるコウゾは低品質で量も少ないうえに、生産者の高齢化による原料供給体制の崩壊が危惧されている。

県外生産地においても、生産規模の縮小が示唆されており、継続的なコウゾの供給は保証されていない。

タイやパラグアイなどからコウゾを輸入することもできるが、海外産コウゾは品質が低いため、美濃の手漉和紙に適した原料を確保することは困難である。

(2) 事業内容

全国のコウゾ産地の調査と原料入手を行い、美濃の地に最適な育成品種の選定と栽培を行う。

コウゾ栽培にあたり、栽培・管理技術のマニュアル検証・更新を進めると共に、次期植えかえ期の検討を行い、安定した栽培技術を確立する。

栽培コウゾを原料に紙漉きを行い、手漉き職人による感性評価、紙の物性評価並びに手触り感の数値化、及びエンドユーザーによる和紙の使用感調査を行い、コウゾ及び和紙の経年的な品質推移の検証と総合評価を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

コウゾを生産する業者が減少して行く中で、岐阜県として文化的価値の高い美濃和紙を守っていくために、県が原料供給体制を維持するための事業を行う必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	375	会計年度任用職員報酬
旅費	287	会計年度任用職員旅費、職員旅費（コウゾ生産地調査、学会参加）
需用費	686	各種消耗品の購入（コウゾ苗、コウゾ原料、薬剤、実験器具等）
委託料	1,060	紙漉き業者委託
その他	127	共済費、学会参加負担金等
合計	2,535	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

美濃和紙活性化のための第3期アクションプラン

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

美濃和紙に欠かせない『コウゾ』の品質の安定化・高品質化を図り、美濃和紙の生産基盤確保に貢献する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
① 技術移転の推進		0件	1件	1件	2件	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>【アクションプラン第2期】 手すき体感のアンケート調査を行い、美濃楮は前年よりも原料の質や異物・スジの混入の評価が向上し、漉きやすさや和紙の外観は前年と同様に高い評価を得られた。 当該年度の森林研移植楮（大子那須楮）と美濃楮（生櫛圃場）の和紙は繊維が細かくツヤがある等の大子那須楮和紙に近い評価も得ることができた。</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p style="color: red;">令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	コウゾを生産する業者が減少して行く中で、美濃和紙の技術の継承と発展に向け、県は地元美濃市と連携して引き続き技術の開発と移転に取り組む必要性がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究課題の内容について、ヒアリングを行い本年度実施内容の確認を行うとともに、進捗確認を行ったところ、予定通りの調査・検討を始めており、事業自体も周知が進んでいることから期待通りの効果が得られている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	研究課題に対する中間評価を実施することとしており、得られた意見に応じた軌道修正、および効率化を図る。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 美濃コウゾを用いた和紙の特徴を活かした用途開発。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 業界からの相談・要望から得られたニーズに基づき、事業の方向性について、常に修正し課題解決に取り組む。
